



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月1日

上場会社名 富士急行株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9010 URL <http://www.fujikyu.co.jp/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)堀内 光一郎
 問合せ先責任者 (役職名)取締役IR推進室長兼経営管理部長 (氏名)和田 一成 TEL 0555-22-7120
 四半期報告書提出予定日 平成24年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	33,506	△4.9	2,957	△12.4	2,224	△13.8	1,157	12.0
23年3月期第3四半期	35,237	3.6	3,376	27.4	2,580	41.6	1,032	2.4

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 1,050百万円(△28.6%) 23年3月期第3四半期 1,470百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	10.91	—
23年3月期第3四半期	9.73	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	87,929	16,650	18.3
23年3月期	86,969	16,086	17.9

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 16,056百万円 23年3月期 15,543百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	—	—	5.00	5.00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,460	2.0	2,820	7.8	1,650	4.8	720	8.3	6.79

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 ()、除外 一社 ()

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

24年3月期3Q	109,769,477株	23年3月期	109,769,477株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

24年3月期3Q	3,648,387株	23年3月期	3,738,925株
----------	------------	--------	------------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

24年3月期3Q	106,048,300株	23年3月期3Q	106,144,149株
----------	--------------	----------	--------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 3 ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による急激な落ち込みから徐々に回復の兆しが見られたものの、欧州経済の金融不安や米国経済の景気減速懸念から急激な円高が進むなど先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況のなか、当社グループは、運輸、不動産、レジャー・サービス、その他の各事業にわたり、積極的な営業活動と経営の効率化に努めてまいりました。震災発生直後からの大幅な市場環境の悪化を受け、営業収益は335億6百万円（前年同期比4.9%減）、営業利益は29億57百万円（同12.4%減）となりましたが、四半期純利益は特別損失が前年同期より減少したこともあり11億57百万円（同12.0%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(運輸業)

鉄道事業では、7月1日に富士吉田駅の名称を富士山駅に変更し、富士山の玄関口として自然環境に恵まれた「富士山に一番近い鉄道」富士急行線にふさわしい魅力的な公共空間とするため、デザイナー水戸岡鋭治氏の全面的なサポートのもと駅施設の一部をリニューアルするとともに、富士吉田市や商工会議所、地元商店街等と連携し、富士山駅を起点とした街めぐり散策ルートの整備や共同イベントを実施するなど地域の活性化に取り組みました。

また、JR東日本との連携強化を進め、横浜線から初の直通列車「快速富士河口湖号」の運行や臨時フジサン特急の運転期間の延長を実施し、また、「富士急電車まつり2011」の開催や各種イベントに連携した記念入場券を販売するなど増収に努めました。

乗合バス事業では引き続き不採算路線の改善を行うとともに、近年静かな人気を呼んでいる一合目からの富士登山に便利な馬返までの乗合バス運行を開始しました。

高速バス事業では、7月より国内外のお客様が利用する羽田空港と富士山・富士五湖とのアクセスを飛躍的に向上させる「羽田空港～富士山駅線」の運行を開始し、夏季登山シーズンには一部の便が富士山五合目まで乗入れました。また、さがみ湖リゾートプレジャーフォレストにおけるイルミリオンの開催に合わせ、新宿から直通の「さがみ湖イルミリオン線」の運行を開始しました。

貸切バス事業では、4月に山中湖エリアにおいて陸上でも水上でも走行可能な水陸両用バス「YAM ANAKAKO NO KABA」の運行を開始し、7月からはアテンダントによる楽しい演出を導入し多くのお客様から好評を博しました。

ハイヤー・タクシーなどの各事業を含めた運輸業全体では、市場環境の急激な悪化に対して、主に貸切バスを中心として事業規模、営業体制の見直しに取り組みましたが、営業収益は115億59百万円（前年同期比10.3%減）となり、営業利益は5億66百万円（同37.2%減）となりました。

(不動産業)

不動産販売事業では、引き続き山中湖畔別荘地において、大人の趣味・嗜好を追求できる「コンセプト・ヴィラ」シリーズに、「煉瓦の森山中湖」等の新商品を加え積極的な販売活動を展開するとともに、お客様への訴求効果の高いWEBサイトをリニューアルし需要の喚起に努めました。

別荘地管理事業では、山中湖畔別荘地において別荘オーナー様を対象とした「オーナーズゴルフコンペ」や「パーカッションライブコンサート」など各種イベントを開催しCS向上に努めました。また、消費電力の削減のため、平成24年3月末完了を目指し山中湖畔別荘地・十里木高原別荘地において、全ての街路灯のLED化工事に着手いたしました。

不動産賃貸事業では、新たにロードサイドホテルへの賃貸を開始するなど事業用土地の有効活用を進めるとともに、既存施設においては計画的な施設の改修を行い、営業収益の確保に努めました。

以上の結果、不動産業全体の営業収益は20億54百万円（前年同期比0.3%減）、営業利益は6億10百万円（同7.3%増）となりました。

(レジャー・サービス業)

遊園地事業では、7月に富士急ハイランドに5年ぶりの大型設備投資である最大落下角度世界一（ギネス記録認定）のローラーコースター「高飛車」を導入し好評を博しました。また、11月には、『リアル脱出ゲーム×エヴァンゲリオン「ある使徒からの脱出」@富士急ハイランド』を開催するなど集客に努めました。

富士南麓のゆうえんちぐりんぱでは、7月に「ピカソのタマゴ」に新たな5種類のアスレチックを追加し、12月には昨年に引き続き雪あそび広場に「雪ピカソ」をオープンし集客に努めました。

スノータウンイエティでは、スキー場として13年連続で日本一早くオープンし話題を集めるとともに、新たに設定した首都圏発着等の直行ツアーバスでは前年を上回るお客様にご利用いただきました。

さがみ湖リゾートプレジャーフォレストでは、4月に首都圏最大級のデイキャンプ場「ワイルドクッキングガーデン」を、7月には迷路のテーマゾーン「森の迷路」を導入し好評を博しました。また冬季営業としては、11月にLEDを200万球から300万球に拡大した関東最大級のイルミネーションイベント「さがみ湖イルミリオン」を開催し、入場者数は前年同期比で約50%増となるなど大変な人気を博しました。また、屋外では関東で一番早い「雪あそび広場」をオープンし、春から冬まで年間を通じて楽しめる施設として集客に努め、前年を大幅に上回るお客様にご来場いただきました。

ホテル事業では、7月にハイランドリゾートホテル&スパ最上階の12階フロアにスカイバンケット「ティアラ」をオープンし、8月にはキッズルーム「トモミハウス」を新設するなど集客に努め、ブライダルを始めとする宴会受注は前年を上回りました。

物販・飲食事業では、4月に静岡県における『小山町道の駅「すばしり」観光交流センター』を、また、当社では高速道路SA内に初めての出店となる物販施設「頑固市場」を12月に東名高速道路上り線EXPA海老名内に開業し、開業当初から多くのお客様にご利用いただきました。また、さがみ湖パディントンベアキャンプグラウンドをはじめとするキャンプ事業においては、アウトドアにおける「PICA」ブランドが定着し前年を上回るお客様にご利用いただきました。

以上の結果、レジャー・サービス業全体の営業収益は171億81百万円（前年同期比3.6%減）となり、営業利益は16億31百万円（同16.4%減）となりました。

（その他）

百貨店業では、富士山駅への駅名変更に合わせ、富士山の玄関口である「Q-ST A」をリニューアルするとともに、鉄道事業とのタイアップ商品「Q-ST Aお買物きっぷ」の発売や全館スタンプカードを導入し前年を上回る収益を上げました。

製造販売業では、富士ミネラルウォーターの販売が引き続き好調に推移し営業収益が前年同期比約5%増となるなど、大幅に向上しました。

以上の結果、その他の事業全体の営業収益は53億7百万円（前年同期比10.4%増）となり、営業利益は1億93百万円（同1億96百万円増益）となりました。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、現金及び預金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて9億60百万円増加し、879億29百万円となりました。

また、負債は、リース債務の増加などにより前連結会計年度末に比べて3億97百万円増加し、712億79百万円となりました。なお、借入金は、長短合計で10億53百万円減少しております。

純資産合計は、利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べて5億63百万円増加し、166億50百万円となりました。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、平成23年5月11日に公表した業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,884,366	10,116,359
受取手形及び売掛金	1,964,662	1,821,125
分譲土地建物	8,657,980	8,650,797
商品及び製品	688,331	730,505
仕掛品	11,423	25,587
原材料及び貯蔵品	573,341	613,305
未成工事支出金	91,137	252,253
繰延税金資産	470,783	544,983
その他	858,465	948,122
貸倒引当金	△12,257	△10,071
流動資産合計	22,188,234	23,692,969
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	26,831,624	26,567,134
機械装置及び運搬具(純額)	6,652,344	5,710,218
土地	16,666,284	16,687,150
リース資産(純額)	1,644,368	4,089,448
建設仮勘定	2,457,096	863,678
その他(純額)	1,405,754	1,403,711
有形固定資産合計	55,657,472	55,321,342
無形固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	4,172,530	3,917,461
繰延税金資産	871,997	840,489
その他	1,014,881	1,130,541
貸倒引当金	△24,209	△24,592
投資その他の資産合計	6,035,200	5,863,900
固定資産合計	64,780,798	64,236,605
資産合計	86,969,032	87,929,574

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,752,921	2,050,881
短期借入金	16,444,630	16,367,938
リース債務	371,731	777,324
未払法人税等	245,463	620,978
賞与引当金	415,094	134,345
役員賞与引当金	9,000	—
その他	4,829,248	3,465,572
流動負債合計	24,068,090	23,417,040
固定負債		
長期借入金	39,673,756	38,696,955
リース債務	1,368,917	3,549,966
退職給付引当金	1,092,048	1,056,917
その他	4,679,221	4,558,318
固定負債合計	46,813,942	47,862,157
負債合計	70,882,033	71,279,197
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,126,343	9,126,343
資本剰余金	3,417,109	3,418,088
利益剰余金	4,647,310	5,275,910
自己株式	△1,566,586	△1,527,557
株主資本合計	15,624,177	16,292,784
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△80,244	△236,155
その他の包括利益累計額合計	△80,244	△236,155
少数株主持分	543,066	593,747
純資産合計	16,086,999	16,650,377
負債純資産合計	86,969,032	87,929,574

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
営業収益	35,237,308	33,506,938
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	31,096,912	29,801,927
販売費及び一般管理費	764,394	747,666
営業費合計	31,861,306	30,549,593
営業利益	3,376,001	2,957,344
営業外収益		
受取利息及び配当金	35,975	38,374
雑収入	124,739	142,170
営業外収益合計	160,714	180,545
営業外費用		
支払利息	858,037	862,174
雑支出	98,420	50,720
営業外費用合計	956,457	912,894
経常利益	2,580,258	2,224,994
特別利益		
固定資産売却益	4,984	68,753
投資有価証券清算益	—	29,578
工事負担金等受入額	111,107	—
補助金	13,660	38,499
貸倒引当金戻入額	4,264	—
特別利益合計	134,016	136,830
特別損失		
固定資産売却損	2,384	712
投資有価証券評価損	878,423	97,326
固定資産圧縮損	115,262	38,499
固定資産除却損	171,531	165,626
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	92,300	—
特別損失合計	1,259,902	302,164
税金等調整前四半期純利益	1,454,373	2,059,661
法人税、住民税及び事業税	887,209	828,636
法人税等調整額	△492,805	24,254
法人税等合計	394,403	852,891
少数株主損益調整前四半期純利益	1,059,969	1,206,770
少数株主利益	26,972	49,434
四半期純利益	1,032,996	1,157,335

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,059,969	1,206,770
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	394,378	△153,405
持分法適用会社に対する持分相当額	15,807	△3,011
その他の包括利益合計	410,186	△156,416
四半期包括利益	1,470,155	1,050,353
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,443,995	1,001,424
少数株主に係る四半期包括利益	26,160	48,929

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計				
営業収益								
外部顧客に対する営業収益	12,843,204	1,690,392	17,516,943	32,050,540	3,186,767	35,237,308	—	35,237,308
セグメント間の内部営業収益又は振替高	49,447	371,338	308,230	729,017	1,618,926	2,347,943	△2,347,943	—
計	12,892,652	2,061,731	17,825,173	32,779,558	4,805,694	37,585,252	△2,347,943	35,237,308
セグメント利益又は損失(△)	900,895	568,517	1,952,496	3,421,909	△2,812	3,419,097	△43,095	3,376,001

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、百貨店業、建設業、製造販売業、情報処理サービス業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△43,095千円には、セグメント間取引消去△46,503千円等が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 3
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計				
営業収益								
外部顧客に対する営業収益	11,515,147	1,680,750	16,837,496	30,033,394	3,473,543	33,506,938	—	33,506,938
セグメント間の内部営業収益又は振替高	44,002	374,176	344,429	762,608	1,833,729	2,596,337	△2,596,337	—
計	11,559,150	2,054,926	17,181,925	30,796,002	5,307,273	36,103,275	△2,596,337	33,506,938
セグメント利益	566,194	610,086	1,631,527	2,807,807	193,829	3,001,637	△44,293	2,957,344

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、百貨店業、建設業、製造販売業、情報処理サービス業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△44,293千円には、セグメント間取引消去△47,766千円等が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。